



いんたびゅう 今、この人に Interview

豊かな自然と安定した教育にひかれて住み続けた大津のまち。
みんなが協調する文化を大切にして欲しい。

大津市国際親善協会 グループ「さくら」

深尾 ジャネット メイさん

■日本に興味を持ったきっかけは？

学生の頃、日本から留学していた今の夫に出会ったことがきっかけです。私の専攻は美術で、水彩画やスケッチなどを勉強していましたが、父親から、もっと将来仕事に役立つような勉強もなさいと勧められ、日本語を勉強するようになりました。漢字は見た目が芸術的で、とても面白そうだったのです。

■結婚を機に日本に来られたのですか？

学生結婚だったので、卒業して、その後1年間アメリカで働きました。そして結婚4年目で来日しました。最初は「とりあえず1年間は住んでみよう」という感じでした。それがもう1年、もう1年と積み重なって、ずっと日本に住み続けることになりました。その間に男の子、女の子、男の子の三人の子どもにも恵まれました。上の二人は大学生、一番下の子は今中学生です。

■もう1年住んでみようと思ったのはなぜですか？

私はミシガン州の出身で、湖のある環境が故郷と似ていたことと、近くに山があって、自然の好きな私にはとても居心地が良かったことがあります。滋賀でなかったら、日本に住み続けることは無理だったと思います。また、子どもが出来てからは、日本の健康保険制度や教育がアメリカに比べて良いことも、居続ける理由の一つになりました。例えばアメリカは、日本と違って市や町が経済的に豊かでないと、教育の予算も削られるので、教育水準がバラバラなのです。また教科書も一人ひとりに無償で配られることはなく、借りて返さないといけないので、よほど意欲がないと、なかなか勉強できるようになりません。そんなことから、教育格差が大きくなっています。日本はその点、とても良いと思いました。

■日本とアメリカの暮らしに、ギャップを感じませんでしたか？

習慣は少し違うので、困ることはありましたが、親戚や地域のお付き合いの仕方などは、義母さんに教えてもらいました。けれども世界中どこでも、人の心は同じなので少しの違いは乗り越えることができます。よく言われますが日本人は行儀が良く、落ち着いています。私はアメリカ人としてはおとなしい方なので、日本にいと落ち着く感じがしますね。

■逆に、日本であまり良くないと思っていることはありますか？

今回の原発事故の問題ですね。すごくショックで、一度だけアメリカに帰国しようと思ったことがあります。アメリカ大使館が無料で帰国できる航空機を用意してくれました。でも、もう少し様子を見ようと思いとどまりました。

もう一つは、家庭教育ですね。日本では子どもにあまり家の手伝いをさせず、何もかもお母さんがやっけてしまいます。家族の一員として、家の大事な仕事を任せるといふ姿勢も大事なのでは、と思いますね。

■ジャネットさんは、大津市国際親善協会での在日外国人のためのグループ「さくら」の活動に取り組んでおられますね。これはどういう活動ですか？

2006年に外国籍のお母さんの悲しい事件が起きました。これをきっかけに、孤立しがちな在日外国人の交流の場を作ろうと大津市国際親善協会の日本人のボランティアさんたちが最初に立ち上げられたグループです。今は年に4回、クリスマスやイースター、ハロウィンなどのイベントで集まって、交流しています。

■どういった国の方が来られますか？

アメリカやオーストラリアの他にイラクやイエメン、ロシア、ブラジ

●プロフィール●

アメリカ・ミシガン州出身。大学在学中に日本から留学していた今の夫と結婚。卒業後1年間ワシントンD.C.の時事通信社で働いた後、1988年来日。夫の故郷である滋賀県大津市で暮らし始める。大津市国際親善協会の主宰する在日外国人交流会「ふれあい広場さくら」の現代表。自治会の子ども会会長を務めるなど、地域との協調や交流を大切にした暮らしを実践している。趣味は絵画、ハイキング、家庭菜園。

ル、ペルー、フィリピン、中国、メキシコ、ミャンマーやドイツなど、毎回いろんな国の人が集まってくれます。いろんな国の言葉が飛び交っていますが、私はいろんな国の人と話したり、文化の違いを学ぶのが好きなので、とても楽しいです。日本人のボランティアの方には、分からないことを相談したり、違う国に来た寂しさなどを聞いてもらったりしています。一緒に料理をして楽しみ自然に交流する中で、相談をしたりアドバイスをしたり、助け合うことが出来るような場にすることを心がけています。

■ジャネットさんは、地元の自治会の子ども会で会長をするなど、地域のコミュニティにも参加されていますね。理想のコミュニティはありますか？

まだ子どもが小さい頃は、家の近所に魚屋さんや果物屋さんがあり、子どもが歩いていると店の人が「こんにちは」と挨拶してくれました。そういう雰囲気がとても良く、安心して子育てすることが出来ました。その当時と比べると、今はそうした地域の交流が少し減ってはきましたが、一斉清掃などみんなで一緒に町をきれいにするという考え方には感動しました。学校でも体育祭や文化祭など、みんなでコラボレーションするイベントが行われていますが、こういう協調性をいつまでも大切にしていきたいですね。